

デフリンピック 金に照準



今季クロスカントリースキー全国大会2冠を果たした喜井さん。2011年「デフリンピック」金メダルを目指す日光市のきぬがわ高原CC

聴覚障害クロスカントリー

大田原の喜井さん

夢は聴覚障害者のオリンピック「デフリンピック」金メダル。6年前にクロスカントリー(XC)スキーを始めた大田原市の会社員喜井寛(きい)さんが、2月に国内大会で2冠を達成した。「1シーズン2回の優勝は自信になる。今後も地道に頑張りたい」。栄冠を糧に、2011年スロバキア・ハイタトラステフリンピック冬季大会で頂点を目指す。
(大町浩美)

優勝したのは、第11回日本障害者XCスキー競技会スプリントフリーキとジャパンパラリンピック2009XCスキー競技大会フリー9キ。いずれも初制覇で「ウエートトレーニングを増やし、滑走フォームを研究したことが大きい」と勝因を分析する。

スキーの話題

出身は愛媛県四国中央市(旧川之江市)。出生時の高熱で「感音性難聴」になったが、高校時代まで陸上の短距離競技に打ち込むなど、スポーツ好きだった。XCスキーとの出会いは03年秋。パラリンピックノルディックスキー日本代表の荒井秀樹監督が「ノルトレークへXCスキーで参加しよう」と書いた雑誌の記事を読んだことがきっかけ。高校時代、長野冬季五輪で萩原健司選手が活躍。感動した記

今季国内2冠を糧に

憶がよみがえり、「華麗な滑りや自然と闘う競技の素晴らしさに挑戦したい」と未経験ながら挑戦に踏み切った。
荒井監督から指導を受け、07年にノルトレークデフリンピック冬季大会に初出場。団体リレー(10キ×3)はアンカーとして4位入賞を果たしたが、個人スプリント(クラシカル1・3キ)は17位で予選落ちした。
「個人は予選突破に1秒92足りなかった。悔しい思いが、次でリベンジするとういう強い気持ちになっっている」。専属コーチがいなかったため練習メニューも自ら組む。厳しい練習の成果が、昨季のジャパンパラリンピック初制覇と今季の2大会優勝につながった。
「ノルディックスキー世界選手権複合団体が日本代表が優勝し、さらに刺激を受けた。ハイタトラスではぜひ、自分も続きたい」と力を込めた。